

2021年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 ( エシカファーム 八反畑園 ) 作成日時 ( 令和3年 9月 )

代表	施設長	本部
風間	行藤	田中

令和年度 改善への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画・支援目標の共有と具体的な内容を示し、スタッフが統一した支援が行えるようにする。</li> <li>・感染症・非常災害の取り組みを施設内掲示やブログだけでなく、面談や送迎時に直接つたえるなどの働きかけを行う。</li> <li>・集団活動を行うと共に個別支援計画をもとにした、発達年齢や特性をふまえた個別や少人数での活動を増やし、体験活動（カフェ、買い物、調理など）を感染症対策を行いながら取り組んでいく。</li> </ul>
今年度の施設目標	自ら「わかる」「できる」「確認できる」「折り合いをつけられる」活動の提供と経験・体験の積み重ねができるようにする

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の活動スペースが十分に確保できていなかったり、スタッフの配置が下校時間が重なると十分でないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの配置数や専門性について、保護者に周知できていない。</li> <li>・スタッフの専門性に関しては経験年数等により差が出ている。</li> </ul>
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有シートやLINE等で子供の現れや支援についての対応を共有している。</li> <li>・スタッフの資質の向上を行う為に、月1回のスタッフミーティング・社員研修・常勤が受講したZOOM研修の内容を共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフに対して支援計画・支援目標の共有を行ったが、全部のスタッフが理解し、支援できるまでには至っていない。また、振り返りが十分でない。</li> </ul>
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動では利用児の発達年齢・特性等に合わせた活動内容が設定できている。</li> <li>・1～3人の少人数の活動を増やすようにした。</li> <li>・活動内容に合わせて、適切な対応ができるスタッフを配置する事ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の学年が近い児童同士や小学生の高学年と中高生と一緒に活動する時間を設けているが保護者のニーズをくみ取れていない。</li> </ul>
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発を利用していた児童の情報共有ができたため、スムーズに取り組めた。</li> <li>・支援級の利用児童に関しては、保護者と学校との情報共有・連絡調整ができている。</li> <li>・普通級の利用児童に関しても、連携が取れつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や保護者との意思の疎通のための配慮があるとは感じていない保護者もいる。</li> </ul>
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の迎え時にタブレットで活動内容を見てもらう、場面によっては直接見てもらうなどの対応をした。</li> <li>・保護者会の開催や保護者同士の連携が支援できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児や保護者からの相談や苦情に対し常勤職員が対応したが、保護者の満足いく対応ではなかった。</li> </ul>
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常災害の発生に備え訓練を行い、保護者に周知・説明している。</li> <li>・感染症・虐待防止を防止するため研修を行い新しい情報・対応を共有できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常災害時の訓練や感染症対策について、掲示や説明等で認知されるようになったが、まだ十分とは言えない。</li> </ul>



分析検討してみたの事業所の強み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の迎え時にタブレットで活動内容を見てもらう、場面によっては直接見てもらうなどの臨機応変な対応を行い、状況を確認してもらうとともに、保護者と児童との会話の場になるようになった。</li> <li>・活動内容に合わせて、適切な対応ができるスタッフを配置することができている。（体を動かす内容は男性スタッフ等）</li> <li>・ミーティングや研修で、支援の考え方・方向性・目的を学び、共有することで資質向上を行うことができている。</li> </ul>

分析検討してみたの事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でのタブレット学習の開始にともない、タブレットの宿題についての取り扱いや対応を検討する。</li> <li>・迎え時に保護者と子供の様子について情報共有するようにしているが、特に進学や就労に関する学年には情報提供や相談を積極的に行うようにする。</li> <li>・集団活動を行うとともに、個別に行う活動の時間を増やしていく。</li> </ul>

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でのタブレット学習が行われ始めたため、事業所で行う・行わないも含めての個別の対応が求められていく。家庭、学校との連携を行いどのように関わっていくのかを明確にしていく。</li> <li>・集団活動を行うと共に個別支援計画をもとにした、発達年齢や特性をふまえた個別や少人数での活動を増やしていく。</li> <li>・経験年数の少ないスタッフでも支援計画・支援目標等の情報が理解できるように配慮し、配置することで支援に偏りがでないようにする。</li> <li>・感染症・非常災害の取り組みをライン等のツール・施設内掲示・面談や送迎時に直接つたえるなどの働きかけを行うとともに活動スケジュールも保護者に周知することで、より活動に理解を示してもらえるようにする。</li> <li>・保護者の迎え時に利用児の様子を共有するとともに、進学・就労については相談支援事業所からの情報提供なども積極的におこなっていく。また、保護者の方に体験談を話していただくなどして、保護者間の交流の機械を設ける。</li> </ul>

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルディスタンス・マスク着用等に加え、学校でのタブレット学習が始まり、面と向かってのコミュニケーションのやり取りが減少していく中で、保護者のニーズも含めてどのような活動をしていくのかを模索していく。</li> </ul>

来年度の施設目標	「わかる→できる→やってみる」ために興味と子供の役割を尊重し、経験が安心して増やせる環境・活動・解決方法を子供と共に考え支援する。
----------	---